

改革への挑戦

発信～

平成26年6月に「規制改革実施計画」が閣議決定され、31年5月までの5年間を「農協改革集中推進期間」と設定されました。JAでは、「農業」「暮らし」「経営」を三本柱にすえ、「農家組合員の所得増大と農業生産の拡大」「地域の活性化と結びつきの強化」「組合員に評価される組合経営」の実践を通じ、自己改革に取り組んでいます。

今回の特集では、これまでの主なJA自己改革の取り組みを紹介します。

農業 —農家組合員の所得増大と農業生産の拡大—

GAP指導員を養成

事務局体制を整え、職員2人を指導員として養成し、「金色の風」栽培研究会ASIAGAP（農業生産工程管理）の認証取得を全面的に支援します。



いわて平泉米

・「ひとめぼれ」特A奪還に向けて

良食味米の安定生産を目指し、栽培管理5項目の取り組みを推進します。

1. 有機物施用時期（土づくり）
2. ケイ酸資材の施用（土づくり）
3. 適期移植
4. 適期中干し（水管理）
5. 適期刈取り



・安定生産販売へ

生産者を特定した買い取りの複数年契約を締結することで、販売先が明確になり安心して生産に専念することができます。安定した生産販売を後押しします。



県内初 生産、流通、販売が一体となり生産者を特定した買い取り、複数年契約を締結

畜産経営基盤の維持・拡大

黄金の郷づくり推進対策事業で、母牛の更新や牛舎増改築助成による増頭を支援しています。

・牛舎増改築による増頭助成の実績

H26年度：6件、H27年度：1件、H28年度：21件、H29年度：14件
牛舎増改築助成により、飼養頭数の増加につながっています。

・子牛市場販売頭数

H28年度：3388頭、H29年度：3406頭

高齢などの理由で生産者が減少しています。29年度は前年より約50人が生産を中止しております。このような中、29年度の子牛市場販売頭数は18頭ではありますが増えました。



子牛販売頭数
18頭増

園芸生産基盤の維持・拡大

新規栽培者向けの主要品目の栽培説明会などを開催し、新規就農者の確保に努めています。経営規模拡大助成（新規・増反）や、関係機関と連携し新規就農者支援を行っています。（H29年度は新規栽培者向け主要品目説明会を年3回開催し、約10人が就農。園芸品目全体で、30人が新たに部会に加入）





JAいわて平泉の自己

～着実な取り組みと

くらし —地域の活性化と結びつきの強化—

食農教育支援

管内の市・町立幼稚園と小学校に野菜苗を無償で提供しています。女性部と青年部を中心に、栽培指導や出前授業を展開。感謝の心を育み、食の大切さや農業への興味関心につなげています。



子育て・次世代支援

平成29年度から、わくわく親子広場を開設。年3回の講座で食と農に触れながら、子どもの健やかな成長と、仲間づくりのお手伝いをしています。



2つの課を新設

平成30年度、地産地消課とくらしの活動課を設置。地産地消の推進と、組合員地域の皆さまの豊かな暮らしを支援します。

・くらしの活動課

女性部や青年部の事務局機能や一日人間ドック、日本農業新聞や家の光などの普及活動のほか、JAくらしの活動、食農教育への支援に取り組みます。

・地産地消課

学校給食や管内外食店への農畜産物、JA加工品などの普及・拡大に取り組みます。



経営 —組合員に評価される組合経営—

営農指導部門の集約

東部、西部営農振興センターに分かれていた営農、畜産部門を営農振興センターとして川崎支店建物内に集約しました。地理的中心地に一元化することで、組合員の皆さまの利便性の向上を図るとともに、指導技術の平準化と事務の効率化を図り、充実した営農指導で農家組合員の所得向上を支援します。



組合員の声を聞く活動

組合員の意見・要望をJA事業に反映させるため、組合員座談会や地区運営委員会などを通じて、組合員の声を聞く活動を大切にしています。地区運営委員会は営農経済センターごとに開催しています。組合員組織や協力組織、准組合員の代表が構成員となり、地域の課題やJA、営農経済センターの方針などに関して検討を行い、地域の声をJA事業に幅広く反映させていきます。



自己改革発信中!!

JAIわて平泉のホームページに自己改革ページを新設。JA自己改革のDVDを見ることができます。農業電子図書館のJAIわて平泉ページや各支店でも放映を予定しています。

連携した取り組みを推進



JAIわて平泉青年部協議会
会長 那須 俊裕

JA青年部では、食農教育を柱に活動を展開しています。幼稚園や小学校での水田体験学習を中心とした栽培指導を通じ、農業の良き理解者、消費者を育てていくことが大切です。今後も学校や地域、JAとの連携を図り、農業体験を通じた食農教育に積極的に取り組んでいきたいと思っています。



JAIわて平泉女性部
部長 佐藤 幸子

JAの自己改革について説明を聞いたときは分かったような気がするのですが、自己改革について問われると言葉に詰まってしまう。女性部として、自己改革の学習会などを開催し理解を深めるとともに、女性部活動を通じてJA事業に積極的に参画し後押しをしていきたいと思っています。



JAIわて平泉
代表理事組合長 佐藤 鉦一

平成31年5月の農協改革集中推進期間の期限が目前となり、今年は正念場の年となります。「農業」「くらし」「経営」を3本柱に農家組合員のニーズに合わせた事業を展開し、所得向上に向けた支援をしていきます。役職員と関係組織との連携を強化し、JAの自己改革を進めてまいりますのでご協力をお願いいたします。